



刊行のごあいさつ

「四郷まちづくりのあゆみ」

編さん委員会委員長

梅村 利幸



先人の思いをつないで

「四郷まちづくりのあゆみ」発刊にあたり、ごあいさつ申し上げます。

本書は、よりよい我がまちを、との思いと共に、四郷の人々が取り組んできたまちづくりの軌跡をたどっています。猿投神社に伝わる祭礼記によりますと、「四郷」は今から676年前の貞和5年（1349）にその名が記録されている由緒ある地です。明治期に実業家の井上徳三郎が青木原一帯を開墾したことで四郷は東に広がり、農

業が中心の地域となりました。昭和のは場整備事業によつて農地は改良され、平成になる頃に愛知環状鉄道・四郷駅が開設されます。そして、およそ8年に及ぶ「豊田四郷駅周辺土地区画整理事業」が令和5年に完工し、利便性の高いまちへと生まれ変わりました。

私がまだ若かりし頃、年配の方々は口をそろえて言っていたものです。「この辺りはいいところだで、おまえたちがまちを作っていけよ。駅もできるし、何とか開発していこうよ」と。今日の四郷の発展は、そうした先人たちの熱意、進取の気風があつてこそ。そのご苦労に心より敬意と感謝を申し上げます。

「自分たちのまちを、自分たちの手で豊かにしていこう」との気概を持つてまちづくりに取り組んできた先人たちの足跡をまとめ、後世に伝え残したいとの想いから、このたびの発刊となりました。新たに四郷の住民となった皆さまにとっては、まちの将来を考えるきっかけとなれば幸いです。

結びに、まちづくりにかける情熱が次世代に引き継がれ、さらなる発展につながることを願つてやみません。また、本書の発刊にあたりご協力賜りました皆さまに、厚く御礼申し上げます。